

平成 4 年 2 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

名坂越甲州道を行く

青梅市の北部を占める成木地区は、1995 年 4 月に青梅市の一部になるまでは、西多摩郡成木村でした。成木村は 1889 年 4 月までは、上成木上分・上成木下分・下成木上分・下成木下分、そして北小曾木の村々に分かれていました。

この成木地区の道路は、自動車交通が盛んになる大正時代までは、飯能や秩父方面と奥多摩や甲府盆地を結ぶ道路としても利用されていました。この道路は途中で、名坂峠を越えるところから、成木や飯能では「名坂峠甲州道」と呼んでいました。そこで、成木 7 丁目の「上成木」バス停留所から奥多摩町大丹坂まで歩いてみました。

停留所から成木川に沿って西へ進むと、2～3 分で高水山登山口に着きます。JR 青梅線の便が良くなってからは、軍畑駅から高水山（常福院）へ登る人が多くなり、平溝側が表参道のようになっていますが、実は、成木 7 丁目（入平）から登る道が表参道です。登山口には道標が立っています。

登山道入口から 3～4 分進むと、小さな交差点に着きます。左側の石垣の上には、高さ約 91cm の出羽三山碑が立っていて、碑の右側には「右 ちちぶ 子のごんげん道」、左側には「これより高水 みたけ掛越」、裏側には「西 日原 甲州道」と刻まれています。碑は道標の役割も果たしており、この小さな分岐点は名坂峠を超えるための重要な地点だということがわかります。

道標から西の方へさらに進むと、途中には寛政 8 年（1796）の馬頭観音、文政 4 年（1821）の出羽三山碑、そして山ノ神などが祀られています。常盤坂の横にも文化元年（1804）の出羽三山碑と馬頭観音が並んでおり、碑には「右 やまみち」「左 大たば ひか王 甲州みち」と彫られています。ここから左側に進むと、極指の集落と別れて山道に入ります。

常盤橋から約 8 分進むと鉄製の橋に着き、少し進むと左下の谷底から水が落ちる音が聞えてきます。ここには高さ 20m の升ヶ滝があり、滝は二段になっています。さらに進むと小さな分岐点に着き、そこから右側へ約 50m 進んだところに「畠山重忠の切石」と呼ばれる、チャートの大きな割れた石があります。割れ目は、まるで、刀で切ったような形になっています。ワサビ田に沿って約 15 分進むと、巨大なチャートの岩壁に着き、右側のわかりにくい山道を 5～6 分登ると、標高 712m の名坂峠に着きます。

(文責 角田清美)